

はるや流しに打もぎ中程をうり先以て皆様
に交りきくは越年の由大慶に極はせく
栞書母七十三、春生五二、謹出及妻ハ頭坂所
分れりする消光我をいりるあり心とらふ
當年ハ雪深く節句と云ふにたのむす程
もを降りやいりや、ゆるもよほれ様とて
牙にけりぬ
追次去来た穂波温泉ハ穂波館と云
の骨抄で出来たもので是が追次ハめづ
る者展し七十九計りありました又ハ岸
湯田中ハ六百尺ノ観音と建立銅像其下
方ハ平又地トメ大郡洋凡の家をいぬ
東、其ぬ学校は坊ホも中々立派あり
ました然し其設備が出来ると共不潔事
とあり一掃もて録して居る様あり概で
おせらます、小生もわきまこよつこは流
して居ります、が幼様お回舎でハ殊に
困難でございやす、返りたりは年かえと共
は流し追次斬りてあり

武田富司様
おはる畠二様

武田蔵山

手前

穂波

温泉

向孝八

平穂

温泉

海田中

その中

川原也

大佛
の
百
尺

山

ヒラホ

山
↓

景全 泉温 波 穂 州 佐